

博士課程後期への進学にあたる準備としては、前項で挙げた修士論文の制作が主たるものとなる。

Pope and Simonsohn (2011) は、アメリカのプロ野球リーグ (Major League Baseball, MLB) に所属する打者が、自らの打撃成績を表す指標の一つである打率が特定の値 (.300) を上回ることに對して強い選好を持っている、と考えられる行動を示すことを発見し、この値が打者にとっての参照点 (reference point) として機能している、と主張した。これに對し私の研究では、こうした行動が他の打撃指標でも観察されるかを確認した上で、彼らの契約内容に着目し、各の指標について一定の値を上回ることによって、翌シーズンの報酬が不連続的に上昇するような金銭的インセンティブが存在するかどうかを検証した。結果はこうした仮説を否定するものであり、観察されるような行動が、こうした不連続的な報酬デザインによってもたらされるわけではないことを明らかにした。後続研究としては、契約年数など、固定給以外の金銭的とみなすことができる報酬を含めた研究や、日本をはじめとする国際間の比較、あるいは同じような行動が観察される他のプロスポーツやアマチュアスポーツとの比較を行うことが考えられる。

また、今後も継続して研究を行うための準備として、分析対象となるデータの利用可能性の確認と収集を行っている。MLB に関するデータについては修士論文執筆の過程で収集可能な範囲を確認し、選手の成績、および選手ごとの詳細な契約内容について、十分なデータを取得することが可能であることをチェックした。また、契約条件に関して MLB との比較を行うため、日本のプロリーグ (日本プロ野球機構) についても、契約に関するデータを取得するための活動を行っている。具体的には、2018 年 4 月よりあるプロ球団のデータ入力業務に携わっており、球団からデータの提供を受けることを目指している。アマチュア競技についても、記録を集計している連盟・大会が存在するため、今後はこうした団体との連携も視野にいたれた分析を継続する予定である。